



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLY BULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

友達になろう

BE A FRIEND



佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 (12:30~13:30)

例会場 ホテル神宮寺 TEL 0985-73-0015

事務局 〒 880-02 佐土原町大字下田島9883番地1
TEL 0985-73-0015

1995. 6. 30 (金) 第369回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「手に手つないで」
3. 百万\$の食事
4. 、長の時間
5. 幹事報告
6. 各委員会報告
7. 全員懇談会
8. 点 鐘

第368回例会記録 (1995. 6. 23)

会長の時間 代理 副会長 児玉武文

皆さん今日は、本日は第368回例会です。

池田会長が所用のため出席できませんので、私が代行をさせていただきます。

今年、阪神大震災、オウム真理教事件、さらに先日の日全日空ハイジャックと、思いも掛けぬ大きな出来事が続きました。幸いハイジャックの方は乗客・乗員全員無事で犯人が逮捕され、安心しました。

従来の日本のハイジャックへの対応は、国際的な対応と違うということで、いろいろ議論されてきましたが、今回は暴力テロに対して毅然とした対応を貫いたことは、高く評価されてもよいのではないかと考えます。

日本経済新聞に、33回に亘って連載された「高齢化社会の課題」という記事がありました。

私事で恐縮ですが、家内の母が丁度80歳で、脳血栓を患い入院治療しておりましたが、去年

の7月から自宅で介護をしています。また私の母は85歳になりますが、現在西都市で独り住まいをしております。本人の強い希望もありまして、このような事例でも分かりますように、わが国の今後の大きな高齢化社会の問題は、親の問題であると共に子の問題でもあると思います。

同紙の連載記事中にも、皆さんがご承知のように、わが国はやがて若年者三人で一人の高齢者を養わなければならない時代が来るといことから、資産、税金などさまざまな問題に至るまで摘出されていました。

昨日が最終回でしたが、わが国の今後の高齢化社会の問題が、厄介な問題を抱えているというとらえ方をされているのは何故か、その要因が次の三点にまとめてありましたのでご紹介しておきます。

1. 将来の生活の不確実性に対する不安がある。現在は、将来の生活の予想が極めて立てにくい移行期にあるのではないか。
国民の意識が変化し、価値観が多様化してきた。家族制度とか雇用制度とか、従来のわが国の社会を支えて来たもろもろの制度が変化をしているが、それに対応する制度が不十分で整備されていない。例えば、老後を保障する年金制度の見直しについても措置が遅れている。
2. 死に対する意識がまだ定まっていない。
従来は人々が抱けるまでは生きていなかった。いわゆる短命であったのである。ところが最近では長寿化となり、いいことではあるが、その反面抱ける問題が出て来た。同時に医療・介護の問題も生じている。

事務局 〒880-03 宮崎県宮崎郡佐土原町大字西上那阿5632 (有) 藤堂産業内 ☎0985-74-2575

会長 池田仁志・副会長 児玉武文・幹事 藤堂孝一・会計 大野高志・会報責任者 垂水博博

長寿化社会に医療が対応して来たものは何かといえば、高齢者の延命ではなかったのだろうか。少しでも生き長らえさせるのを医療の目的として来たのではない。

今後は、いい死の方がいい死に繋がるといふ発想の転換をしながら、個人としての尊厳を保ちつつ一生を終え得るような視点からの医療制度なり、社会福祉制度が見直されるべきでないか。

3. 高齢者を一括して、「保護されるべき者」という意識がわれわれには強いのではないか。

本来、健康に寿命を延ばして、余暇を活用しながら、最後の人生を価値あるものとして生き生きと暮らすことが長寿化社会なのである。長寿者の中には、しゃんとして活力に溢れ、自分なりの生活を全うできる人も沢山いるし、また、本当に助けてやらなければならない人もいる。そのあたりの見分けをはっきりとし、適切に対応することが肝要である。

健全な高齢者には手助けの必要はないのであって、そのような人達には社会的な義務や負担は応分に求めて、活力のある生き方を通してもらえばよい。どうしても手を差し伸べてあげなければならない高齢者には、それなりのアプローチができるような医療・社会の仕組みを整備しなければいけない。

わが国の高齢化社会の課題として、読後に考えさせられたことは、やはり前述のような諸問題に対して、政治が先取りをすることが大事であるということでした。

幹事報告 藤堂孝一

1. 例会変更通知は来ていません。
2. 佐土原ロータリークラブの公式訪問通知が届いています。7月28日(金)です。
「公式訪問報告書」を7月14日までにガバナ―事務局に提出しなければなりませんので、各委員長は次年度の活動方針・活動計画・予算計画を6月30日までに幹事に提出してください。
3. 次年度宮崎市郡6RC会員名簿の顔写真を未提出の方は至急幹事宅へ郵送してください。

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	30名
欠 席 者 数	7名
H C 出席者数	23名
出 席 率	76.7%
メークアップ者数	3名
修正出席率	86.7%
欠 席 者 名	井下・垂水・佐野・郡可

本日のビジター
西都RC 内村好也君

社会奉仕委員会より 副委員長 伊東忠寛

1991年から2000年まで10年間実施されます国連麻薬撲滅運動の、5年目に今年になります。この運動は、RI支援事業になっています。昨年は、お陰様で当クラブの募金額は15,837円にもなり、それにクラブ会計から4,163円を補充して、合計20,000円を寄付しております。全国では50万\$の浄財が国連に寄付されました。

今年も6月24日から7月23日まで募金が行われますが、当クラブとしましては、毎週の例会日にハッピーボックスにご寄付金を投入していただきたいと思ひます。

会員卓話 6/2 II 山 脇 忍

特定のウイルスに対するワクチンができないということは、それらのウイルスへの予防法が大変難しいのです。私も医学関係者は、いかにして地球上からウイルスを撲滅するかを研究し、国やWHOでは、その施策を行っています。その結果、ある種の(例えば発疹チフス、痘瘡など)ウイルスは無くなっています。それに対して、もうこれで終わったと思われていたウイルスが、20年も経って奥地から現れています。しかもそれが非常に変わりやすい。ウイルスの第一の特徴は変異しやすいことですが、その中でも現在現れているエボラ出血性ウイルスやエイズウイルスは非常に変異が強いのです。ですから、それに対する抗体を作るのが難しい。結局その患者が死ぬまで体内に寄生してしまうのです。

(続く)